

○議 事 日 程

平成30年12月27日（木）午後4時開会

平成30年度第2回守口市まち・ひと・しごと創生委員会

○出 席 委 員 （11名）

委員長	眞 鍋	昇 委員
	山 口 行	一 委員
	大 森 康	二 委員
	藤 田 智	子 委員
	山 田 和	利 委員
	谷 本 直	貴 委員
	小 西 雅	晴 委員
	工 藤 順	子 委員
	川 上 博	文 委員
	吉 岡 典	昭 委員
	宮 本 欽	司 委員

○事務局

企 画 財 政 部 部 長	工 藤 恵 司
企 画 財 政 部 都 市 経 営 戦 略 監	瀬 戸 隆 之
企 画 財 政 部 次 長	尾 崎 剛
企 画 課 課 長 代 長	鈴 木 将 巳
企 画 課 主 任	平 祐 徳

~~~~~

◇ 午後4時00分 開会

○委員長 一応録音してまして、どなたの発言がちょっとわからないときがあるので、申しわけございませんけども、御発言のときにはお名前を一言言っていただいて、それから御発言をお願いしたいです。

では、事務局からきょうの出席委員の数の報告をお願いします。

○事務局 人数を御報告申し上げます。本日の出席委員、定数15名中11名の出席でございます。

○委員長 ありがとうございます。

ただいま、事務局から報告ありましたとおり、この委員会の条例第5条第2項の規定に基づいて、定足数に達しておりますので、会議は成立いたします。

続いて、議事録につきまして、前回の会議の議事録につきましては、メール等で確認していただいたかと思いますが、何か御意見ございましたら。

(異議なし)

○委員長 それでは、異議がないということで、前回お伝えしましたように、署名委員の藤田委員と山田委員にお願いしてしますので、御署名いただいて議事録として決定したいと思います。よろしくをお願いします。

それでは、早速ですけども、議事に従って、1の報告でございます。

守口市の転出入アンケートの実施について、事前に配付していただいております資料の1に沿って事務局から報告を受けたいと思います。よろしくをお願いします。

○事務局 それでは資料1の守口市の転出入アンケートの自実施についてということをお説明させていただきます。前回、本委員会で御提案をいただきました転出入に係るアンケートを実施いたしましたので、ここで報告させていただきます。

お手元の資料1、2種類ございますけども、転入用と転出用の2種類でございます。こちらのアンケートですけども、9月から実施して、転出入は、

守口市の総合窓口課に転出入の届けを出すことになっております。そこに総合窓口課に回収箱を設置し、来庁された市民の方にアンケートの協力依頼を行って適宜回収しておるものでございます。

まだ9月からということもありまして、対象者は引っ越しされる方限定になってきます。また、そういった方、時間の余裕もなかったりですとか、また、窓口の待ち時間もそう長くないということで、アンケートの回収率は現在非常に少ない状況になっております。今後、このアンケートがまた一定数集まれば、集計など分析を行ってまいりたいと考えております。

また、恐らく転出の時期、3月、4月というのは非常に転出も多いかと思っておりますので、またその際は分析した結果を御報告させていただきます。よろしく申し上げます。

○委員長　　ありがとうございます。

この件につきましては、まだアンケートのサンプル数が集まって、それを分析するということまでは進んでないんですけども、この件につきまして、何か御意見とかコメントございますか。

○委員　　選択肢が5番と6番あるんですけども、何か割と選択する側からすると、まあ何というか、同じような気がするなと思ってて、ここの取り扱いですね、それが1つと、あともう一つは、問7は、その他みたいなのがなくてよかったのかなという。例えばですと、こういうふうに地域を見て、1番から12番のような地域を見て御判断されるということもあるかと思いますが、純粹に以前住んでいたところよりも今のほうが、例えば通勤時間が短くなるからみたいな、そういう感じもあると思う。まあ、行く行くは1番に入るんだろうなみたいなところあるんですけど、人によっては別のことを考えるのではないかなという、その近辺です。

○委員長　　ありがとうございます。

ほかに委員の先生方から御意見を伺って。

委員は他の市でも同様な会議に出席されていらっしゃるかと伺ってるんですけども、このような点につきましてどのように。

○委員　ほかの市でも確かに転出、転入で傾向というか、新たな気づきが生まれるということで取られておられるところが多いんで、それはぜひやっていただきたいと思うんです。このアンケートの中で、割と選択項目が少ない問いが結構多かったと思うので、少し自由チェック欄って言ったらちょっと語弊があるかもわからないんですけど、そのそれぞれの項目に該当しないけど、私はこんなんですっていうようなのが、もう少し書く欄を入れてあげてもいいのかなと。割とこう、多分2つに分かれると思うんですけど、めんどくさくて書かれない方もあれば、逆に一生懸命コメント書いていただける方もある。そういう意見をもう少し拾う意味では、自由記述欄みたいなのをもう少し設けてもいいのかなと。

○委員長　なるほど。

○委員　はい。ちょっとそういうふうに感じました。

○委員長　ありがとうございます。

先ほど先生からもおっしゃって、その他か何かの欄を何か加えて。

○委員　そうですね、はい。御意見を御記入くださいみたいな欄もあってもいいのかなという。

○委員長　これ9月から実際に行われてるということですが、ただいまの先生方の御議論、コメント等をまた参考にしていただいて、改善できるところは改善してということで。一定数集まりましたら分析の結果も、中間報告でも結構ですので教えていただいたらと思います。よろしくをお願いします。

○事務局　はい、お願いします。

○委員長　ほかに先生方、特にございませんか。

それでは、何か年末で押し迫ってバタバタと申しわけございません。

じゃあ、次に地方創生拠点整備交付金に係る費用の効果検証についてという、報告ではございますけども、報告の2です。これに進めさせていただきたいと思います。

それでは、事前に事務局のほうから配付されていますパンフレットを見て

いただいて。これは資料の2になるんですね。

○事務局　　そうですね。パンフレットです。

○委員長　　事務局から報告をいただきたいと思います。よろしくお願ひします。

○事務局　　それでは、事前にお配りしておりますパンフレットですが、こちらの表紙と、見開き、開いていただいて左が今回守口市の地方創生拠点整備交付金を活用しまして改修を行いました南部エリアコミュニティセンターでございます。こちら、まずこの前、もともと保健センター、守口市民保健センターの1階にありましたところを改修して、このエリアコミュニティセンターとしたところでございます。

まず、改修工事費用ですけれども、こちらの1階部分のみの改修になるんですけれども、設計とまた工事、あと工事監理含めまして、約、大体8,000万円でございます。このうち、地方創生拠点整備交付金が大体3,700万円程度、国費があたっております。

また、この施設の特徴ですけれども、見開きの写真にもありますように、キッズスペースを設置しまして、子育て世代の交流の場といたしました。また、こちらの建物なんですけれども、保健センターということで、4階には子育て支援センター、また、3階には母子保健事業を行っております健康推進課が入っておりますので、子育て世代がより利用しやすい場となっております。また、今までコミュニティセンターですとか公民館といったところの利用が少なかった世代も呼び込んで新たな層がこのエリアコミュニティセンターを利用されてるというところでございます。

以上でございます。

○委員長　　ありがとうございます。

この件につきまして、何か御質問とかございますか。

これは実際に、先ほど説明いただきましたように、3,700万円ほどの交付金を頂戴して、主にこの1階の部分を改修するというなことに今回は、実際は使ってるという理解ですか。

○事務局　　そうです、はい。

○委員長　　これ利用頻度とか、そういう何か数値的なものはまだないんですか。

○事務局　　現在、まだ年度途中でございますので、確定した部屋の稼働率等はございませんけども、従前、改修する前よりは現在上がっているというふうに聞いております。

○委員長　　なるほど、わかりました。また、年度末あるいは来年度でも結構ですけども、ある程度数値的なものがわかりましたら、教えていただけたらと思います。よろしくお願いします。

ほかに先生方、特にございませんか。

今回は南部エリアのコミュニティセンターなんですけども、このいただいたパンフレットに、あと錦と西部エリアありますけども、こういったところも今後同じ方法で、何かお金があればやっていくのとか、そういう予定はあるんでしょうか。今のところ、ちょっとめどが立ってない。

○事務局　　そうですね。今のところ。

○委員長　　わかりました。

もう委員の専門に近い部分だと思うんですけども、いかがですか。

○委員　　こういった事業はつくれるようであればつくっていただいて、地域の社会的なネットワークをより強めていくような使い方ができると思うので、やっていただけるのであればいいのかなと思います。

○委員長　　実際に使われる機会が多いかと思うんですけど、市民代表の委員の方々、いかがですか。委員、いかがですか。

○委員　　ほとんど利用したことがなくて、済みません。

○委員長　　お住まいの場所との関係もありますね。

○委員　　そうなんです。ちょっとね、イオンの裏ら辺に住んでて、ちょっとこういうところが遠いんですよ。子供が小さいときとかも保健センター行くのもちょっとひと苦労だったんで、自転車とかで。ほぼほぼ利用したことがない。済みません。

○委員長　　そうですか。議事録に載せないようにしないと。それは冗談ですけど。

○委員　　これキッズスペースとかで利用ふえてるということで、具体的にはどんな活動に使われることが多いのでしょうか。

○事務局　　まず、この南部コミュニティエリアセンターですけども、こちら現在、管理しておるのは指定管理者、民間の指定管理者が管理しております。その中で自主事業といたしまして、例えばおもちゃ病院、おもちゃを直すようなやつですね、事業ですね。おもちゃ病院をしたりですとか、また、子供の囲碁教室、将棋教室というものを行っております。キッズスペースなんですけども、この本庁舎の地下1階にもコミュニティセンターが、エリアコミュニティセンターがあります。そこにもキッズスペースというようなフリースペースがあるんですけども、親子がマットの上に乗って、上がってほかの家族ともしゃべりながらという風景はよく目にしております。

以上でございます。

○委員長　　どうもありがとうございます。

○事務局　　補足でございますけども、施設の御紹介だけではあれなんで、背景をしゃべらせていただきたいと思いますんですが、守口市の場合、過去、社会教育施設で公民館というのがございました。それが市内に10館1分室ございまして、そちらのほうはいわゆる社会教育施設という名のもと運営を過去から、職員を配置したりしながらやっておったんですけども、効率化であるとか、組織、公共施設の統廃合なんかを主眼に置きまして、公民館からコミュニティセンター化という1つ大きな流れがございました。今回、お示しさせていただいている南部エリアコミュニティセンターにおきましても、例えば今、解体撤去中の三郷小学校、旧の三郷小学校の横に三郷公民館というのがございました。また、南のほうに南部公民館というのもございました。そこらあたりを統合して南部、中部、それから東部のほうにそれぞれエリアコミュニティセンターというのを今回つくらせていただいております。今回、御紹介させていただいている南部のエリアコミュニティセンターについては、既存

の公共施設の有効活用の観点から保健センターの1階、ここは、もともとはデイサービスセンターが社会福祉法人により運営されておったところなんですけれども、そちらのほうがこの隣接地のところに特別養護老人ホームを建設されまして、そこのほうにデイサービス機能も移されたことから、その跡地を活用させていただいて、今回交付金も活用しながら整備を進めさせていただいたところでございます。ですので、南部はここで、中部につきましては、この本庁舎の地下を活用させていただいて中部のエリアコミュニティセンター、それから、旧藤田中学校跡地というところがございまして、そちらのほうには東部エリアのコミュニティセンター、したがって、東部エリアのコミュニティセンターについても東公民館、東部公民館、それから庭窪公民館の分室という、この3つの、旧でいいますと公民館を統合させていただいて、エリアコミュニティセンターにさせていただいているところでございます。背景としてはそういうところなんです。

○委員長　　どうも御丁寧にありがとうございます。

どうぞ。

○委員

さっきおっしゃられたところのつながりになるんですけども、当初、公民館ですごい体育館の需要が多かったと思うんです。時間帯とか土日とかに限られたことかもしれないですけど。当初、公民館からコミュニティに移行することに当たって、結構体育館使いたいねんみたいな需要というか、そこどうなのというところをちょっと聞いてたものですから、現状、そこで受け入れ不満とか、足りないとか、そういうのはどんな感じなんでしょうか。

○事務局　　行革の観点でちょっと言葉が入っちゃうんですけど、守口ってすごい体育館が多いんですよ。人口1人当たりの体育館の面積でいうと、皆さん、守口以外にお住まいの方もいらっしゃると思うんですけども、通常学校以外の体育館が地域にあるというのはほとんど市町村ないと思います。通常でしたら、もう市民体育館みたいながあって、あとはサークルなんかは、皆さん地元の小学校の体育館を使われるというのが普通だと思うんですけれ

ども、守口の場合はその10館1分室の公民館時代から、その多くに体育室がありました。学校の体育室よりはちょっと小さ目ですけども。ですから、非常にこの体育運動サークルの方なんかの活発な活動がございましたんで、委員おっしゃるとおり、公民館からコミュセン、看板だけ変わるんですけど変わらないうんですけど、当然集約というのが今回入ってきましたので、当然活動の場の競争率が高まるとか、そういったお声は全くないとは言えない状況です。

○委員長　　どうもありがとうございます。

ほかに御意見ございますか。

体育館というんじゃないんですけど、結構公共のほうで最近、コンビニの上に24時間オープンのトレーニングジムとかがえらいはやってる。若い人だけじゃなくて、僕らみたいな、僕は体動かすのは大嫌いなんですけど、おじいさん、おばあさんが常に。だから、うまく若い、勤めてる方は夜とか、昼間は、そんなのもあったり。それから、埼玉のほうのこの前ちらっと聞いたんですけど、こういうパブリックの体育館のひと隅を業者の方が借りて、そこにそういうトレーニングのマシンを置いてお金を取るとか、そういう試みもあつたりするらしいので、何でもこれお金がかかることなんですけども、今、体育館が十分に使われてるっていったらそれはそれで結構と思うんですけども、一部とか準備室のようなところでもあいてるということになったら、場合によつたら業者の方とコンタクトとってみて、そこにマシンを入れると。大阪国際大学のスポーツやってる学生さん用にあるんですけど、1回、たまにお年寄り使ってみるって言ったらすごい喜ぶんですよ。何かすごく元気になったような気がして。全然なるわけじゃないんですけどね。またそういうこともされると、結構お年寄りの方が健康を維持するということではいいかもしれませんし、1つのビジネスチャンスにもなるかもしれないというふうに思います。余りいいかげんな話なんですけど。そういうこともあるという。

ほかに御意見ございませんでしょうか。

そしたら、委員の方々の御意見も踏まえまして、守口市での取り組みに生かして、より実りのあるものにしていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

それでは、次に案件の2、意見交換でございますけども、協働による取り組みについてということで、事務局より説明いただきたいと思います。

○事務局　今回、本委員会の主要取り組みのテーマが協働ということで、第1回目御議論いただいたところでございます。前回、公募型協働事業提案制度の件数少なくてというところから議論いただきまして、今回はそのちょっと制度から外れてはおるんですけども、協働について、市民委員であります委員から持ち込み企画ということで、市と協働による取り組みの提案のプレゼンを行うところでございます。本日は委員の都合が合わなかったため、関係者の方によるプレゼンとなります。委員は実は市民委員でして、住基台帳から無作為抽出で選ばれた、今回そういう形で市民委員を選出させていただきました。たまたま大学生である委員が今回委員となったんですけども、今日プレゼンいただくのは、同じゼミの方がちょうど守口市に住んでおりますので、その方に入場していただいてプレゼンを行っていただきます。

○委員長　お願いします。

(関係者入室)

○関係者　よろしくお願いいたします。

○事務局　本日、来ていただきました経緯のほうだけ説明させていただきます。

第1回目のほうで委員が以前りそな銀行さんと連携してゆるキャラを用いた企業PRをしたというがありまして、その委員会終了後に、私と委員と、その詳細ちょっと深く聞きたかったので確認させていただきました。その中で、守口市と何か連携してできればいいなという話になりましたので、その後、委員を通じて大学のゼミの教授と打ち合わせを行って、来年度に連携する事業の実施を目指していくという運びになりました。

本日、プレゼンしていただくんですけども、ゼミのチームで複数のこうい

う事業を考えていただいております。本委員会において、その中から1つ選ぶというわけではなくて、複数の案を多角的な視点からいろいろ御意見いただいて、その後、また大学のほうと、また市とでどの事業を実施するかということを決めたいと思います。

では、バトンタッチさせていただきます。

○関係者 おはようございます。本日はこのような機会をいただきありがとうございます。よろしく申し上げます。

それでは発表をしていきます。

先日、事務局から守口市の課題がシティプロモーションと魅力的なイベント、イメージアップ、人口減少などの課題があるとお聞きしたのですが、私たちはシティプロモーション、魅力的なイベント、イメージアップについて提案します。具体的にはイベントの考案、駅前広場の活用、インスタ映えスポット特集、キャッチフレーズの考案を提案していきます。

まず具体案1からいきます。守口の由来は森の入り口であること、もり吉が柴犬をモチーフにした動物のデザインであること、この2つを利用した提案をします。それがこちら「あつまれ、どうぶつの守口」です。最近、「どうぶつの森ポケットキャンプ」という携帯アプリがあるのですが50代の私の母もはまっており、周りでも遊ばれている方が多いです。私たち20代はもちろん、30代、40代にも根強い人気があります。

「どうぶつの森」のゲーム内でのイベントで例えば森の住民たちがどんぐりを拾って、そのどんぐりと期間限定の家具を交換するといったものがあります。そのようなイベントを実際に行う企画が「あつまれどうぶつの守口」です。例えば淀川の河川敷の子どもまつりのブースの一角として「あつまれどうぶつの守口」をできれば、「お、これ、おもしろそうやな」と思ってくる方が多いと考えました。例えば、そのイベントで釣りイベント、ペットイベント、清掃イベントなどを行います。

釣りイベントは淀川で釣ったブラックバスの大きさを競うといったイベントです。しかし安全面の問題がありますので、子供を対象にするのであれば、

魚の形に切った紙に磁石をつけて釣る遊びがふさわしいと思います。

ペットイベントは例えばペットの写真を撮って、その中で一番かわいい写真を投票してもらうといったコンテストです。

淀川河川敷での清掃イベントでは淀川河川敷で拾ったごみの量によって景品を交換してもらえるというイベントです。釣り、清掃イベントはどうぶつの森のゲーム内でのイベントを連想させるもので、ペットイベントはゲームをしらない方でも「あつまれどうぶつの守口」という名前から受け入れてもらえるイベントです。

もちろん、デザインやフレーズが著作権の問題上、かなりのアレンジが必要です。「どうぶつの森」は、動物のキャラクターがいっぱいいるので、もり吉がそのキャラの住民のような設定だとおもしろいと考えました。

次がこちら、実写版もり吉です。守口の中ではもり吉を知らない人はおそらくほとんどいないと思います。しかし市外にゆるキャラをPRするのは大変労力のかかることだと思います。ゆるキャラグランプリでも、りそなのりそにゃさんが、ゆるキャラグランプリで優勝されていましたが、多大な労力をかけられたと思います。そのような労力をかけ、ゆるキャラ市場で戦うより柴犬本体の絶大な人気を利用するほうが市外にアピールできると考えました。例えば、パンフレットやイベント、インスタグラム、名刺などにこの実写版のもり吉を載せるだけで、「あ、これ、かわいいな」という反応があると思います。ゆるキャラを用いたPRも良いですが、もりスマイル等SNSで、実写版を発信したほうが市外の方々からの関心を集めやすく拡散され、費用体効果が高く、副次的にもり吉自体のPRもできると考えました。

柴犬を募る方法についてですが、事務局の方から、狂犬病の予防接種の注射のときに守口市内のペットがたくさん集まると伺ったのでそこで募るのがよいと思います。先に話しました「あつまれどうぶつの守口」や駅前広場のイベントに実写版もり吉にお越しいただくなどすれば、知名度向上につながると思います。1匹だとイベントがあるごとに連れてくるのは難しいと思うので、例えば5、6匹ぐらい募って、交代でイベントに協力してもらう

のが良いと思います。

次の案がユーチューバーのイベントです。守口市出身のユーチューバーにともやんという方がいます。ともやんはバスケットが大変上手なユーチューバーです。守口市の土居地区体育館などを撮影場所としてバスケットを行われている方で若者からかなりの知名度と人気があります。少なくとも関西大学在学学生はほとんどの人がともやんを知っています。Y o u T u b e の登録者数は約20万人で、投稿するごとに1万いいねがつくほどの人気です。守口市の駅前広場のイベントなどで、例えばバスケットのドリブルとかをしてもらおうといったイベントに協力してもらえれば、「守口市にこんなすごい方がいるんだ」というように思われ、知名度を広げることが可能だと考えます。

次の案が、ラーメン、スイーツカフェのインスタ映えスポット特集パンフレットの作成です。例えば、守口市の八島の交差点にある鯛ら一めんまるきさん、土居商店街のe b i s u 堂さん、滝井にあるむぎわら食堂さんなどを特集で組みます。かわいい絵柄の地図をつくってウェブ上に載せます。この提案の意義は、市外の方が守口市のホームページを見たときに、「こんなにインスタ映えする店があるんだ」というのを知ってもらうこと、市のホームページのお堅いイメージを払拭し、守口市に対して市内外に好印象を与えること、個人商店や地元カフェなどの市ならではの店舗との良好な関係を築けると考えました。

具体案4は、キャッチフレーズです。吹田市だと例えば「s u i t a b u l e c i t y」「s u i t a b u l e」のs u i t a がローマ字で読むと吹田になっているという掛け合いがあります。大東市だと「大都市に住むのではなく大東市へ」などのキャッチフレーズがありますが、守口市のキャッチフレーズでは「盛り上がる守口」「守りたい、あなたの心をそんな窓口」「守りたい、町と暮らしをそんな窓口」「守りたい、そんな思いをかなえる入り口、守口は子育ての入り口です」といったフレーズを考えました。守口市で平成29年4月から行われる幼児教育・保育の無償化をより市外の方々にアピールすることを意識して考えました。市のホームページのトップに

「守口は子育ての入り口です」と書いてあれば目につくと思います。また、これらキャッチフレーズを、名刺に書いておけば強い印象を与えられると考えました。「そんな窓口」という言葉が入っているキャッチフレーズが2つありますが、守口市だけでなく、守口市役所のキャッチフレーズとして使えると考え組み込みました。

これらキャッチフレーズをラップにするということも考えました。ラップだと耳につくので、多くの方に覚えてもらえると思います。具体案2でともやんというユーチューバーの提案をしましたが、ともやんにラップをしてもらいY o u T u b eでアップしていただければ市外に対して強いPRができると考えました。

最後になりますが、もっと連携の輪を広げていきたいと考えておりますので、御協力よろしく申し上げます。ここにご出席されている方々とも関西大学と連携したいと考えておりますので、御協力よろしく願いいたします。

(拍手)

○事務局　ありがとうございます。

一応、今回、地方創生委員会ということですが、まさにこの大学生ならではの柔軟な発想といいますか、我々市の職員で到底ちょっと思いつかないような提案なんですけども、これを本当に皆さん、ざっくばらんな御感想と、また意見をいただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

○委員長　どうもありがとうございました。

これ、委員の方々から学生さんに聞くという形でいいですかね。

○事務局　はい。そうですね、各委員さんから多方面の、例えばこうしたらもっとおもしろくなるんじゃないのとか、まさにこの提案をブラッシュアップできるような意見いただければと思います。

○委員長　僕はそれこそ、この土日はスタバないけど砂場はあるとか言ったら、鳥取行ってたんだけど、全然おやじギャグしか思い浮かばないから、

なかなかいいなと思いました。それに、バスケットボールで有名な人がいるとかいう、そういうのも僕らも全然知らない世界ですんで、なるほどなと思いました。

それで、ちょっとここにも放送関係の方もいらっしゃいますので、ぜひいろいろ聞いていただいたらと思います。委員、いかがでしょうか。

○委員　そうですね、なかなか難しそうなところも少し目についたんですけど、余り今は否定的なことは言わずに肯定的な部分で、ぜひユーザーのともやんさんのプロジェクトのところはぜひやっていただきたいですし、うちもできるだけ協力できることがあればさせていただきたいなというふうに思います。

そうですね、ちょっと中身的に今初めて見たのであれなんですけど、おっしゃってるようにかたいイメージであるとか、もっと何かうちも含めてやわらかくしていかないといけないのかなというふうには感じました。ちょっとイベントのところはもっと詳細をもうちょっと練っていかないと、なかなかハードルは高いのかなというふうには感じましたけれども、先ほどもちょっと言いましたけれども、協力できる場所があれば、ぜひさせていただきたいなというふうに思いました。

○関係者　ありがとうございます。

○委員長　委員、いかがでしょうか。

○委員

最初、1つ目の案の淀川でのイベントなんですけども、うちもちょっとこの間、秋に淀川でもりかど未来まつり第1回というのをやらせていただいたんですけども、びっくりするぐらい来ていただいて、やっぱり前回もちょっとディスったわけじゃないんですけど、発言させていただいたんは、駅前であとカナディアンスクエアなんかで毎週のように舞台上、飲食出してみたいイベントがよく行われてて、それがいい、悪いは置いといて、やっぱりマンネリ化することによってお客さんも、「ちょっと今週行かんでも来週行けばいい」みたいな感じになってると思うんですよ。やっぱり駅前のカナディ

アンのダンスなんかは、やっぱりその親御さんなんかを集客するためにやってもらってる部分もあるんですけど、純粋に淀川のほうで働く車をメインでやらせていただいて、消防車とかパトカーと高所作業車とか、自衛隊のとか、そういうな車をいっぱい展示させていただいた。本当に子供さん、どれぐらいかな、30分から1時間待ちぐらいで写真撮ったり、乗ったりするのに、各車にすごい列ができるぐらいいっぱい来られたんで、イベントに対する欲求というか、やれば欲してられる人がいっぱいおられるんで、すごい淀川というのは、僕はありだと思いますし、そこでさっき委員がおっしゃったみたいにいろいろハードルもあると思うんですけど、単体でやるんじゃなくていろいろなところをくっつけてやれば、やっぱり規模も大きくなって目立ち方も全然変わってくると思うんで、すごく目をつけられたところもおもしろいなと思いますし、やっぱり今ペットブーム、ブームって言ったらちょっと言い方おかしいですけど、すごいペットを飼われてる人多いと思いますんで、そこもイベントリンクされたんはすごいいいなと思いました。

○関係者　ありがとうございます。

○委員　あと、ちょっと僕は3番のインスタ映えするスポット特集ってあったと思うんですけど、守口でもいっぱい昔からの場所というか、本来ならばもうちょっとスポット当たってもいいかなというところがあったりすると思う、僕らはちょっと大久保のほうに住んでるんで、旧中西家であったりとか、守口駅前やったら、一歩淀川の方に向いたら文禄堤なんかもあると思うんですよ。文禄堤なんかも確か去年かことしか400周年かなんかでイベントを打つだか、打たないだかみたいな話もちらっと出てたと思うんですけど、枚方のほうでも五六市って行って、毎月ですかね、何かイベントをやられたと思いますんで、東海道の五十三次が実は57つあって、56が枚方で守口が57番という話も位置づけもありますけど、これをリンクさせてもっと打ち出していけば、そのスポットなんかももっと目立つような方向ではもっていけるとと思いますんで、それもやっぱりおもしろいなとは思いました。

○関係者 ありがとうございます。

○委員長 ほかにいかがでしょうか。

委員はいかがですか。

○委員

まず、プレゼン上手なのにびっくりしました。私もいろいろ会社で提案するときあるんですけど、こんなに上手に提案できないなと思って、まず1つ関心しました。

○関係者 ありがとうございます。

○委員 中身なんですけれども、私も一番気になったのが、一番最初に御提案された「どうぶつの守口」ですね。なかなかちょっと私もこのゲーム、ちょっとだけ始めて、もう、すぐちょっと難しくやめちゃったんですけども、確かにやってはる方が世の中に結構いはるなっていうのは、通勤電車で皆さんスマホを持たれてて見られてるのを見かけてますので、まだまだ、始まってからちょっとしばらく時間はたってるんですけども、まだまだ注目を浴びてるゲームになるのかなと思います。それぞれいろいろなイベントが用意されていて、それぞれ守口らしさを出していくことによって、やはり注目度も上がるし、何かこれはぜひ個人的に非常にやっていただきたいなと思っている内容でございます。

あとそれぞれ、ユーチューバーの方とか、キャッチフレーズをつくるだとかいろいろ御提案されたんですけども、お金とか手間がどれくらいかかるのかわからないんですけども、それほど、全くかからないことはないですけども、やっていけるところはどんどん、どんどん、これがあれだって言われてもいい、もう着手していったらどうかなと思うのと。あと、実際ユーチューバーだとか、キャッチフレーズをつくった、つくるのはつくるんですけども、どういったものをPRしていくか、どういった効果が出るのかというのは、ちょっと一度、もうちょっと考えていかないといけないのかなと思っております。

いろいろ勉強になりました。ありがとうございます。

○関係者 ありがとうございます。

○委員長 委員はいかがでしょうか。

○委員 なかなかやわらかいなど。楽しそうなイベントをたくさん、きょう教えていただいたんで、全てやっていただければと思っています。

大学という立場からすると、こういうイベントを、例えばうちの子たちも何か考えたりもするんですけども、いつも私が問いかけるのは、「これってきっとほかの人もしかしたら思いつたかもしれないよね」みたいなことで、「何で実現に至らなかったんですかね」みたいなことを言うんですけど、ちょっとそういうところも検討されれば、割と具体的にできて、実現に向けて前に進んでいくのかなと思います。ぜひ頑張ってください。

○関係者 ありがとうございます。

○委員長 委員、市民の目から見ていかがですか。市民委員のお一人からの提案なんですけども。

○委員 うちの娘が中学校2年生で、もうY o u T u b eとか、こういうゲームのとかってドンピシャ、どはまりやと思います。

○委員長 そうですか。

○委員 聞いてても娘の話を聞いているような感じで、もうだから、「どうぶつの森」なんかでも、今日こういう会議に出るんだという話にしたときも、そのときに清掃のイベントは娘からも意見出て、「そんなんやったら、そうやってお母さん言ってきたら」って言われたんですけど、ただ、清掃のイベントってやっても、なかなか人が集まらない可能性があるけど、「どうぶつの守口」みたいな、こういうゲーム感覚でできるんだったら、多分たくさん、いうたらうちの娘世代、中学生とかもたくさんそういうイベントに参加しやすいんじゃないかなと思って。あとY o u T u b eとかも毎日、毎日、毎日見てるんで、うちの子。こういうのできっかけでみんなが見てくれたら、もっと守口のこともわかってもらえる世代が幅広くなって、年配の方はなかなかですけども、若い世代を取り込むという話ではとてもいいなと思いました。

○関係者 ありがとうございます。

○委員長 ほかに先生方。

○委員 じゃあ、私のほうで。どうもお疲れさまです。

○関係者 ありがとうございます。

○委員 ゲームをモチーフにしたり、Y o u T u b eを多用しようとかね、まさに今の時代に合ったアイデアが盛りだくさんで、もう非常にいい着眼点だなというふうに思いましたね。イベントを企画するときに、インドア、アウトドアってありますよね。

○関係者 はい。

○委員 そういうふうにしてちょっと分けてもいいのかなと。インドアではこういうことをやりましょう、アウトドアでこういうことをやりましょう。そのときに、例えばこういうのはアウトドアだと思うんですけどね、そこで考慮すべき項目とかですね。感心したのは、例えばそのターゲット、対象をどうするかとしたときに子供を対象とすると人が集まるよねと。家族が参加型にしてあげることによって。でも子供を対象にするということは安全面の考慮が必要ですよね。川でするといようなことになったときに、安全を考慮してっていう話まであったんで、深く考えられてるなということ、非常に感心しました。そういったものを企画書という形で落とし込んだらいいのかなと思うんですね。そのときに予測される効果ですよ。あと、その効果検証を何でするのか。例えば参加いただいた方にアンケートをとるだとかね。それでまた次に生かす、ブラッシュアップしていくとかね。そんなふうにして企画書にまとめられると、より具体的な提案になるんじゃないかなと思って。中身自体、非常にすばらしいので関心しました。

○関係者 ありがとうございます。

○委員長 地方創生推進の専門の金融機関、委員。

○委員 今の、確かに若い大学生の方で、若い方のターゲットにはこれいいと思う。1つ、要は若い方をターゲットに、今守口市の市政としては目指しておられるのは、やっぱり若い世代を、特に大阪市からやと思うんですけど

ど、取り込んでくる。そこに先ほどの幼児教育・保育の無償化とかそういう関係が入ってると思います。ですので、まさにドンピシャやと思います。特に守口は子育ての入り口でしたっけ。

○関係者 はい。

○委員 窓口でしたっけ。要は役所のそれぞれの窓口、何とか課の窓口というのも、こういう子育てとか、そういうところにつながっていったら、一番、守口は子育ての入り口ですか。窓口というフレーズもあったと思うんですけども。だから、きっとイベントで守口を体験してもらって、守口のいいところをそこでPRして、守口にはこういう政策を打ってます、問い合わせの窓口はこういうところで、要はつながりですよ。先ほどの幼児教育・保育無償化であったり、コミュニティセンターのこういう受け入れ態勢があります、そこでちょっと途切れてしまうので、その後ですよ。特に北河内7市で若い子育て世代と子世代が出ていくというのが、まさに就職、結婚、進学の時期と、それからもう一つのパターンは、特に北摂エリアに流れていってるのは、子供の教育関係で特に吹田とか池田とか西宮とかあっちの方面も流れていってるというのは実情なので、その辺をもう少し工夫をできたらもっとすばらしいん違うかなと。ちょっとばらばらな意見になってしまうかわからないんですけども、若い世代とその地域に暮らす親世代というんですかね。高齢とまではいかななくても親世代も定住しながら、若い人が入ってきてもらうという、このダブル、非常に欲の深い話ですけども、両方取り込めるようなものにもう少しブラッシュアップしていただけると、なおいいんじゃないかなという、感想で申しわけありません。感じました。

以上です。

○関係者 ありがとうございます。

○委員長 委員さん。

○委員 もう委員の皆様方おっしゃられたように、これターゲットがはっきりしてると。ぼんやりしたターゲットだとやっぱりイベント自体がぼやけるので、この1つ目、2つ目のイベントについては、もうターゲットはつき

りしてて、これがまさに守口市さんが今進めようとしてる若い世代、これを呼び込んでくるということですので素晴らしい企画だなと。これ、もう本当に私、このゲーム自体全く知らなかったんで、お恥ずかしいはなしなんですけど、そうなんだと、今まさに思っているところです。ここで、外から呼んできて、インスタ映えのところにマップなんかつくって市内を回遊してもらおうという、この3つ目につながっていくんだらうということなんで、このイベント集まられた方向けの、まさにマップだらうとふうに思いますんで、これはつながってるのかなというところで展開ができるんじゃないかなというふうに思っているところです。

あと、企画書の話もありましたけど、予算面でいえば、恐らくそないにかからないですよ。どのような、まず、どんなに大きくなっていくかわかりません。まずは小予算でも対応が可能なかなというところで思うので、まずやってみることが必要なかな、重要なかなというふうに見てみて思いました。

あと、委員もおっしゃられましたけど、ここで守口のよさをどうアピールしていくかということが1つ重要で、最後の多分、キャッチフレーズもこれにつながっていくんだらうというふうに思います。これも十分、また練り上げていっていただければというふうに思います。

済みません、以上です。

○委員長　ありがとうございます。

○委員　ちょっともう一点よろしいでしょうか。先ほど五六市、枚方の五六市の件が出たと思うんですけど、実は五六市ももう10年を経過しまして、今は気候さえよければ1万人ぐらい、枚方公園から枚方市駅の街道筋に人が来られます。我々もブース、ブースっていうほどのものではないんですけど、毎回参加させていただいてるんですけど、結構若い世代からまさに孫と親とおじいちゃん、おばあちゃん、この3世代くらいで結構来られる方がふえてまして、だんだん進化、進化というか規模が膨れていってると。出店される方も、抽せんでないとなかなか毎月コンスタントには出れないと。抽せんで

もれたりというような、結構競合も出てるようです。きつとこういうイベントもそうだと思うんですけど、一過性に終わらずに気長に続けていけるようなものにすれば、きつと徐々に足を運んでいただく方が、最初は近くのところからでも、だんだん近隣も巻き込んでいろいろなところからおいでいただけるということになると思うので、ぜひ単発ではなくて継続的な事業としてやっていただければ、なお守口の定住人口というのがふえるんじゃないかなと思うので、それだけ1つお願いしたいなと思います。

○委員長　　どうもありがとうございます。

○委員　　済みません。今のリアルもり吉の話は、今この企画の段階で、これ何匹ぐらい、結構今柴犬ってブームなんです。私もちょっと余り疎い。

○委員長　　豆柴まで入れたらかなりいる。

○委員　　かなりですよ。これ呼びかけたら、結構来るんじゃないかなという。どれぐらいを想定されてるのか。今、保健所さんでビラをまくぐらいの、割と小さいところから始めるかもわからないですけど、これネットで拡散したら結構な数になってくるんじゃないかなというふうな気がしたんですけども、どんなもんなんですか。

○事務局　　実際、ちょっとまだ検討ついていない状態。狂犬の予防接種なんかで、関係者もおっしゃられたとおりどんどん周知して行って、何かのイベントでこういったもり吉、実写もり吉グランプリじゃないですけども、一番似てるやつとか、また名刺とかインスタグラムに拡散していったらと思っております。今、ちょっと実際の何匹おるかちょっとまだ把握してませんので、失礼します。

○委員長　　狂犬病のワクチンの接種率が下がってるんで、こういうのでぜひ上げていただきたいと。いつ狂犬病が入ってくるかわからないような状態になるので。

委員いかがでしょうか。

○委員

まず、素晴らしいプレゼン本当にありがとうございました。若い世代のプ

レゼンやなというふうに関心しました。ありがとうございました。

私、郵便局ですけれども、やはり切手、はがきなどの文化を残したいというのはずっと思ってるんですけれども、やはり世の中というのはネット社会になってますんで、先ほどもありました守口市のホームページなんかを活用されてですね、誰が見ても目を引くような、そんな楽しいコーナーといいですか、そういった部分も設けていただいて、守口市に関心をもっていただくような、そんなこともしていただきたいなと思います。先ほどのラーメン店とかありました、そういった1つのコーナーとか、そういうのも設けていただいて、「あ、楽しいな」というような、そういった守口市のホームページ、ちょっとアピールできたらいいかなというふうに思いますんで、またよろしくをお願いします。

○関係者　　ありがとうございます。

○委員長　　ありがとうございます。

ほかに先生方、いかがでしょうか。

何か屋外のイベントというのは、思いのほかすごいことになることもあるんで、僕はきょう、12時過ぎまで実は沖縄に行ってたんですけども、今から10年ぐらいに沖縄にアグー豚いうて、600年ぐらい昔から日本に飼われてる唯一の豚がいるんですけど、これが一生懸命農家の人が育てたんですけど、全然売れないというので、10年ぐらい前に、まずは沖縄の人に食べてもらわなあかんということで県の人と一緒に屋外に、最初タダでどんどん食べてもらおう言うて。来年も1月の最後の土日に2日間で20万人ぐらい集まるような、そのうちの10万人近くは県外からもそのために集まるような。だから、なんかそういうきっかけがあると。今、申し込みとかもそれこそインターネットで簡単にできるような、以前はそういう事務的なことが大変だったのが、もうばかばか来るようになって。だから、こういうのもやってみると想定外に人がいっぱいくるかもしれんし、かすってるのかもしれないけども、ぜひ頑張ってやっていただいて。何かね、人間はね、ちょっと胃袋をつかむような何かがあるとね、意外とくるんですよね。おいしいもの、守口大

根でもええんですけどね。何かそういうことも考えて頑張ってください。何か成功して、イベント屋さんになって社長さんになるのもええかもしれん。

○関係者 ありがとうございます。

○委員長 どうもありがとうございました。

ほかに先生方から御意見ございませんか。

そしたら、ただいまの御発表いただいた件につきまして、委員の先生方からのコメント等も参考にさせていただいて、人をぜひ実りがあるような形になれば一番理想と思うんですけど、ぜひ協働で頑張っていたきたいと。よろしくをお願いします。

それでは、議事も一番最後で、その他でございますけど、委員の先生方から何か御意見、コメント等ございますか。特にございませんでしょうか。

事務局のほうからは何かございますか。

○事務局 本日第2回目なんですけど、第3回目、前年と同じように大体3月ぐらいを予定しておりますので、また。

○委員長 大体そうですね。

○事務局 また日程調整等、日が近づき、またさせていただきますので、よろしくお願ひいたします。

○委員長 そしたら、本日の議事録の署名人ですけども、こちらから、申しわけございませんけども指名させていただいて、小西委員と工藤委員にお願いしたいと思います。ぜひよろしくお願ひいたします。

それでは、きょうは本当に年末のお忙しいところ、集まっていただきありがとうございました。

今後とも何とぞよろしくお願ひします。よいお年をお迎えください。

これで委員会を閉会させていただきたいと思います。

ありがとうございました。

◇ 午後5時30分閉会

~~~~~